

さくら便り

第18号 社会福祉法人 真寿会

〒321-2332 栃木県日光市大室863-7

TEL0288-26-4141 FAX0288-32-1233

URL <http://oomurosakuraen.jp/>



特集

今年で大室さくら苑は開苑して10周年を迎えました。これからもよろしく願い致します。

大室さくら苑 十周年を迎えて

私達はさくら苑を設立して以来、十年を無事、迎えることができました。そして当苑は、大室地区にに根差した施設になりつつあると、実感しています。

これは正に、この地区の皆様方のご協力の賜と感謝しております、ありがとうございます。

当苑では、入所、短期入所、デイサービス、ヘルパー派遣、と在宅介護支援センターが、一体となって、老人介護サービスを行っています。

そして、これらを遂行する優秀な職員にも恵まれており、私は嬉しく思っています。

又、法人を支える理事、評議委員の方々も十年前と殆ど同じメンバーで、ご協力をいただいています。これにも大きな感謝です。そして、施設の周囲の自然環境を整えるべく、花木の植栽をいたしました。

十年たった今、春になると、梅、白モクレン、レンギョウと「さくら苑」の名の通り、七種類のさくら(河津桜、ソメイヨシノ、エド彼岸桜、おもいがわ桜、山桜、しだれ桜、八重桜)が次々に咲き始めます。

そして、季節と共にあじさい、や、紅葉も楽しめます。特にレンギョウが満開になるときは、施設の周りが黄色一色に染まり、まさに壮観です、どうぞ季節ごとに合わせてお遊びにおいでください。

私たちは今後も、より良い老人介護を目指して努力して参ります。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

三日

平成二十六年三月

設立十周年にあたり

大室さくら苑

施設長 太

田英雄
設立十周年にあたり、一言ご挨拶させて戴きたいと存じます。はじめに、この十年間さくら苑を支えて下さいました、役職員の皆様に対して厚く御礼申し上げます。

また、ご支援賜りました、日光市をはじめ各自治体、民生委員の方々、各種団体、ボランティアの方々、地域住民の方々、そしてさくら苑をご利用して戴いたご利用者様に感謝いたします。

十年間があっという間に過ぎ去ってしまいました。まさに『光陰矢の如し』です。その間、高齢化は進み、日本の人口の4人に1人が高齢者で、そのうちの四百万人以上も、認知症を抱えております。介護保険制度も様々に変化し、現在は在宅で二十四時間サポーターする定期巡回・随時サポーターサービスという、医療・看護・介護が一体となり、利用者をお世話するということ制度を国が勧めております。しかし残念ながらそれは理想であり、全国の地方においては特に進んではない状況です。私も団塊の世代で、だれが(WHO)言ったか前期？高齢者の仲間に入り、いずれ介護される立場になると思います。しかし全国的には現在でも特養への入居者は四十万人以上にもなり、そのうえ我々も加わると大変な数に上ります。しかし国の方針は個別ケアの立場から、個室ユニットを推進し、

個々人の尊厳のために質の向上をうたっております。しかし質の向上も量の増大がなければ困難な時代に差掛っております。施設を利用できる者と、出来ないものの格差は一目瞭然です。勿論在宅でも立派にお世話している家族も多いのですが、それは様々な困難を乗り越えやっているのではないのでしょうか。そこで、ユニット化より、従来型特養を増やし、また既存の施設で利用されていない部屋を特養化し、既にある社会資源を生かして戴ければと思います。国の財政、地方自治体の財政からみても、自然の理ではないでしょうか。特養の運営も現在非常に厳しい状態です。しかし社会保障の一端を担っている施設として、利用者様に『最後の余生のさくら』を、というと語弊があるかもしれませんが、終の棲家としての最後の舞台を、いかに有意義なものにするか、喜んで散って逝って戴くか、様々な方法をこれからも勉強していかなければなりません。

施設として『常に利用者様と共に生きる』をモットーに人間の幸福(幸せ)とは何か、利用者様の痛みは何かを考えながら、役職員一同頑張ります